



特集

活力 ある

平成 21 年度は、新しい総合計画がスタートする年。
めざす姿は、
自然を身近に感じ 活力に満ちた 美しいまち 当別

当別へ

この総合計画では、町が今後 10 年間で進めていく目標として、町民と行政の協働、自主自立のまちづくりを目指すことなどがまとめられています。

これから当別がもっと魅力あるまちへ発展していくには、地域住民の方が主役となったまちづくりを進める必要があるのではないのでしょうか。

新年を迎えるにあたり、各分野で活躍されている方へ、インタビューを通して現在取り組んでいることや将来の目標などを聞かせていただきました。

農業

活力ある当別へ
Interview

考えるより
実行

ファームふたば
(蕨岱)

三角 真人

さん

久美子

さん



直売所をオープンして2年、加工品は、試作段階も含めて取り組んでから3年になります。以前は、収穫して農協などに出荷することが農業だと思っていたのですが、うちで生産している農産物は本当においしいのか？と考えたことが加工を始めたきっかけです。うちは、主に大豆を作っているの、豆腐に加工することで大豆の味を確かめることにしました。

たまたま見つけた小樽の自然屋という豆腐職人のもとに自分で育てた大豆を持って行き、「この大豆で豆腐を作って欲しい」とお願いしたところ、快く引き受けてくれました。試食をすると、豆腐から大豆の甘みや香りがダイレクトに伝わってきて、おいしいと感じました。それ以来、そこの主人とは「こだわったものを作りたい」という思いが合致して毎週一回農場の大豆を豆腐に加工してもらい、直売所で販売しています。(冬は月1回)直売所も手作り、ホームセンターでログハウスのキットを買ってきて、倉庫で組み立てて家の前まで運んできました。もちろんホームページも

手作りです。私たちは、何事もまずはやってみることを心がけています。“悩んでやらない”よりは飛び込んでから問題にぶつかっていく方が性に合っているのかもしれないですね。

自分で作った作物に付加価値をつけて販売することが必要と考え、JAS有機やエコファーマーなどの認証も取得しました。現在は、北海道が認定する「道産食品登録制度」という認定を取得しようと勉強をしています。これは、全て北海道産の食材で作っていることを証明するものです。

農産物や加工品が、当別産、北海道産として知名度が上がっていけばいいですね。新発売の豆のお菓子にも当別のおみやげになればと思い、名前に当別と入れました。

ゆくゆくは、北海道のおみやげとして販売できるような商品を作りたいという夢を持っています。当別の大豆は、まだ認知されていないので、もっと知ってもらえるように努力していきたいです。

第5次 総合計画 活力のあるまちづくり

- ・ 地産地消や町の農産物PRを推進するため、生産者団体との連携や直売所のあり方を検討します。
- ・ 効率的で安定的な農業経営を目指して、計画的な農業経営の改善に取り組む意欲と能力のある担い手の育成・確保を図ります。

- ・ 地域ブランドの確立に向け、人材、技術、資源などの創出を図るため、農・商・工連携体制の構築に努めます。



商業

活力ある当別へ
Interview

小林商店（園生）
小林 泰雄 さん

商売を通して様々なことを
消費者へ伝えて行きたい



一度は東京に住んでみたいと思い、アパレル関係の仕事を約10年していました。海外へ買い付けに行ったり、自分がデザインしたオリジナルブランドを企画、製造、販売し、雑誌などでしか見たことのない人たちと知り合う場面があり、楽しかったですね。

34歳のときに、父親が体調を崩して、自分の年齢的にも洋服のデザインを続けていくには、感覚が鈍ってきたかなと思い、このまま東京に残るか考えたのですが、今まで好きにやってきたから少しでも恩返しができればと思い、当別へ帰って家を継ぐ決意をしました。今では、お客様から「おにいちゃん」と声をかけてもらっていますが、店に立つばかりの頃は、誰も自分のことを知りませんでした。今の当別をもっと知り、町内の人に少しでも自分のことを覚えてもらおうと商工会青年部などの各団体の会合に顔を出しました。今では、お客様も付くようになり、その時に声をかけてもらった方には、とても感謝しています。

現在は、魚介類以外への知識を増やそうとベジタブ

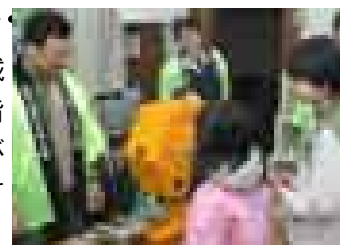
ル&フルーツマイスターの資格取得のために勉強しています。私はまだ若く、経験では年配の方に負けますが、資格を取って知識を身につけることで、お客様へ食の安全、安心や旬の情報を伝えることができればと考えています。

当別にもっと若い人たちが増えて活気が溢れるまちになればいいと思います。昔の文化が壊れるという意見もありますが、やはり、新しい人が入らないとまちは活性化しないですね。年配の方が安心して暮らすことができ、若者が安心して働ける場所の確保をするために様々なアイデアを出して行かなければならないと思います。今後は、新しい地域ブランドを作っていくことに力を注いで行きたいですね。

第5次 総合計画 活力のあるまちづくり

- ・ 農業をはじめとした、地域の特性を活かした起業を促進するために、優遇策など各種支援策を検討します。
- ・ インターネットなどによる販売や売り出し情報の発信など商業チャンスの創出を図るとともに新規創業支援に努めます。

- ・ 農商工連携による地域ブランドの創出を目指し、地域活性化および雇用確保の一環として企業誘致に努めます。



共生

活力ある当別へ
Interview

地域と共に歩む



田村 準起 さん (末広) 共生型地域オープンサロン

知的障がいのある田村君は、人とのコミュニケーションが不得手なところがあり、当別小学校、当別中学校、ともに特殊学級で学び、新篠津高等養護学校へ進学しました。

卒業後、およそ3年間地元の養鶏場にて働いていましたが、10月からは、共生型地域オープンサロンを利用することとなり、ドーナツやクッキー作り、駄菓子の販売や1日コックさんでの接客をこなしています。

「ドーナツの作り方は教わりました。大丈夫です。」と自信たっぷりに答えてくれました。

1日コックさんでは、大きな声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」とお客さんに元気一杯に対応しています。

人と関わることが好きなので、来客が多かった日には、日誌の中に「今日はお客さんがたくさん来てくれ

て嬉しかった」と書き込み、将来を見据え、やりがいを感じながら毎日の仕事をしています。

オープンサロンセンター長 菅原秀和さん

共生型地域オープンサロンでは、7名の障がいを持つ方が働いています。このサロンは、地域の方をはじめとして、北海道医療大学学生、小学校の児童が足を運ぶ場所なので、多くの方と交流をすることができます。仕事のほかにも、ボランティアの方と一緒に飾りつけをしたり、掃除の仕方を教えてもらったりと日常生活に必要なことをここで学んでいます。

みんなから「上手だね、一生懸命やっているね」と褒められることで彼らのやりがいにも繋がっています。これからは、子どもやお年寄り、障がいを持つ方など多くの方がふれあい、相互理解が深まっていくような場所にしたいと思います。

第5次 総合計画 元気なまちづくり

- ・共生型地域オープンサロンなど共生型福祉活動に対し、町民が関わりを持てる環境整備の推進に努めます。
- ・ボランティアセンターと連携し、様々な場面でボランティア活動への参加支援、機会提供に努めます。

- ・子どもから高齢者まで生涯にわたって学び合い、助け合い、支え合う意識を育む機会づくりを推進します。



三村 安希子 さん お話しサークルたんぽぽ(太美)



読み聞かせは 子どもとの幸せな時間

太美にはJRの駅があり、通勤にも便利と考え、引越してきました。引越した当時は、友人があまりいなかったのですが、子どもを幼稚園に通わせたり、サークル活動をする事で友人ができるようになりました。

現在は、中学校2年生から1歳まで5人の子どもがいて、まさに子育ての真っ最中です。主人は、単身赴任で家を留守にすることが多いのですが、週末は帰って来て子どもの面倒を見てくれます。

当別以外で子育てをしたことがないので、一概に比べることはできませんが、お母さん同士の結びつきが強く、とても親切な方が多いと思いますね。

絵本が好きで子どもに読み聞かせができるようなお母さんになりたいと思っていました。だけど、面白い絵本の情報や、子どもを惹きつけた読み方など、わからないことが多く「お話しサークル

たんぽぽ」に入って活動することにしました。このサークルに入って、本当にいろいろな絵本に出会うことができました。

「お母さんの声で読んであげることが大切」と教えられてからは、自分が好きな本を選んで読み聞かせをすることに決め、自分が楽しく読むことができれば、どんな絵本でも子どもと楽しい時間を過ごすことができることがわかりました。今では、子どもの方からお母さんこれを読んでと持ってくるようになり、自分で絵本を選ぶようになりました。

子育ての環境については満足していますが、困ったときに助け合えるような地域になればいいですね。ファミリー・サポート・システムは、地域で連携して子育てを支えようという取り組みなので、もっと広がっていくと、子育てがしやすい環境になるのではないのでしょうか。

第5次 総合計画 すてきな人づくり

- ・ファミリー・サポート・システムを充実するとともに保育ボランティアを育成し、地域で見守る子育ての充実に努めます。
- ・就学前の子どもと保護者を対象にした親子で集う場の提供や健診時の相談など子育て支援の充実に努めます。

- ・家庭環境や就労形態などを意識した保育サービスの充実を図るため、幼稚園と保育所の一元化に努めます。

